

# 愛知県環境測定分析協会のおゆみ

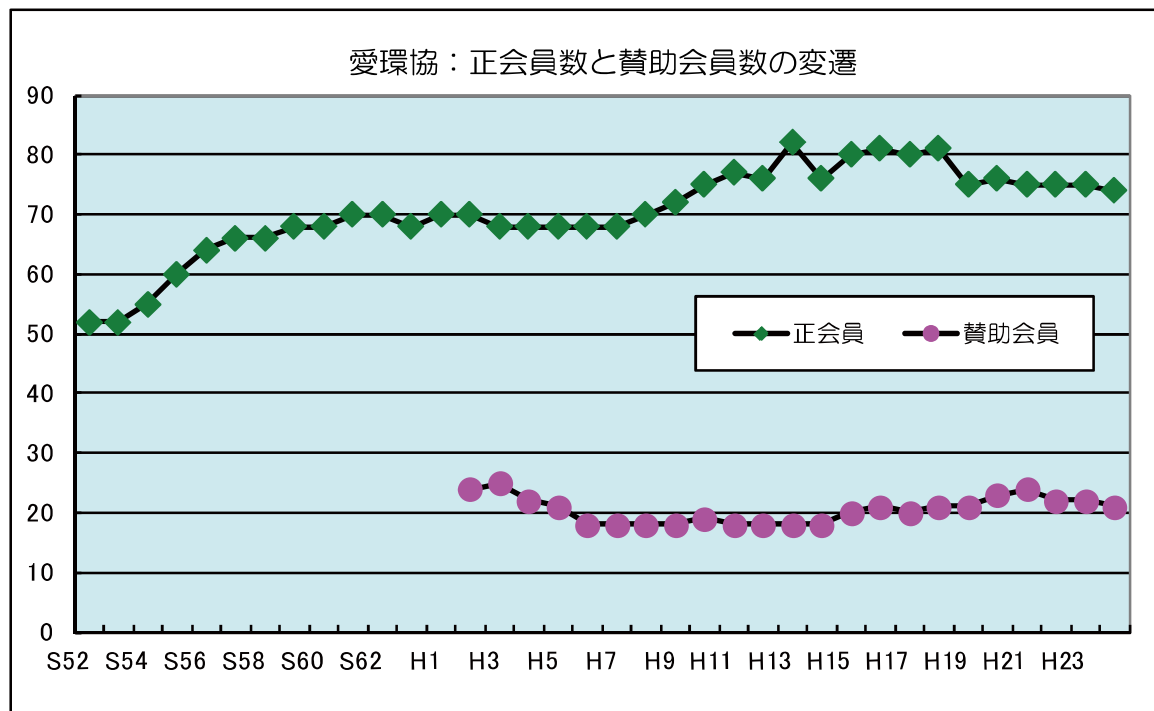


# 1. はじめに

愛知県環境測定分析協会は、会員の技術の向上と業界の健全な発展を確立するとともに、環境の改善並びに公害防止の一翼を担うため、県当局の指導のもとに、昭和52年8月9日に設立総会を開催し、協会として発足しました。

協会名称は、当初「愛知県環境測定分析業協議会」とし、昭和59年に「愛知県環境測定分析協会」と名称変更、平成8年には「社団法人愛知県環境測定分析協会」として法人化しました。そして、平成24年に、公益法人制度改革により「一般社団法人愛知県環境測定分析協会」となり現在に至っています。

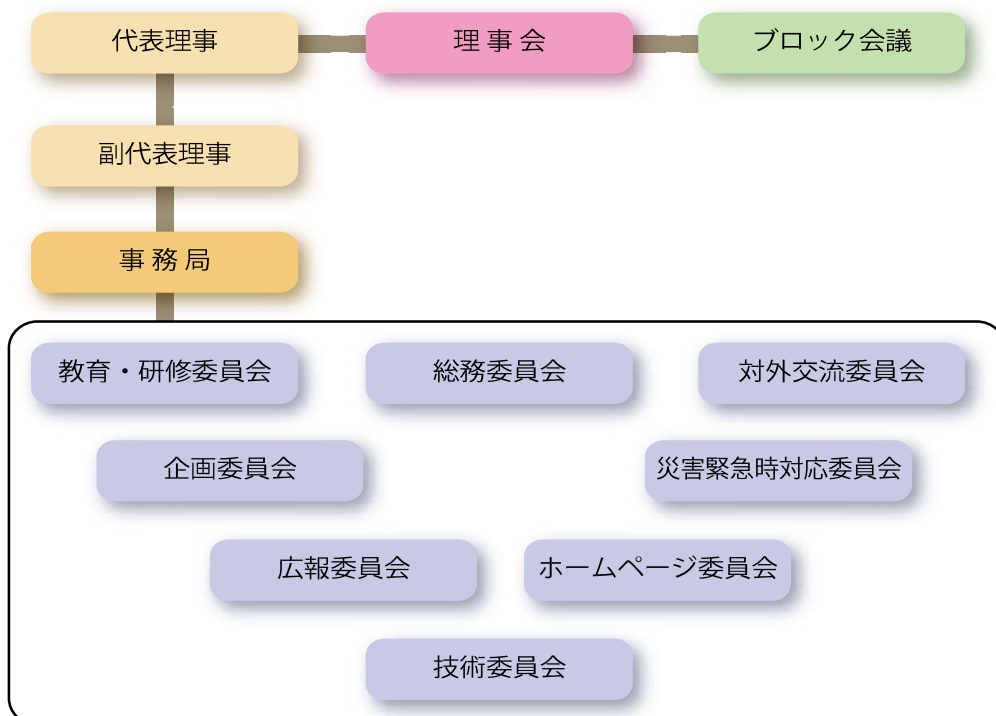
事務所は、当初、(財)東海技術センター（名古屋市名東区）内に設置し、昭和59年に名古屋市中区金山に移転しました。平成25年7月11日現在、愛環協は、会員企業：74社、賛助会員：21社で構成され、愛環協事務所内に日環協中部支部事務局（愛知、静岡、三重、岐阜、富山、石川の6県単で構成）も設置され、密な連携を図っています。



## 2. 協会の体制と各委員会の主な活動内容

年 度	会長（代表理事）	副会長（副代表理事）
昭和52年	発起人代表 田中宏明（㈱サンコーアナリス）	
昭和53年	村山博（㈱サンコーアナリス）	伊藤清一（財東海技術センター）
昭和59年		鈴木薫（いづみ化学工業㈱） 堀田献（財東海技術センター）
平成元年	堀田献（財東海技術センター）	鈴木薫（いづみ化学工業㈱）
平成2年	藤原昭二（㈱テクノ中部）	三輪淳一（㈱愛研）
平成11年	石川清美（㈱テクノ中部）	三輪淳一（㈱愛研） 大場和子（㈱東海分析化学研究所） 大場和子（㈱東海分析化学研究所） 阪野二郎（財東海技術センター） 河野達郎（財東海技術センター）
平成15年	濱地光男（㈱ユニケミー）	
平成16年	平成24年より代表理事 （公益法人改革による一般社団法人化）	
平成18年		
平成23年		
平成25年	河野達郎（財東海技術センター）	大野哲（㈱イズミテック）

### 現在の愛環協の体制



## これまでの委員会の主な活動

これまでの委員会	主な活動内容
政策委員会	昭和54年～昭和63年 会員の料金表調査、機関紙の発行、会員の入退会管理、協会章の公募等
事業規程委員会	昭和52年～昭和53年 県の指導により事業規程モデルを作成等
騒音レベル委員会	昭和56年～昭和60年 騒音計量証明書統一様式の制定、講習会の開催等
PR委員会	昭和54年～昭和63年 測定分析済証の発行を制度化、環境計量講習会を開催、県主催の「くらしと計量展」に出展などの愛環協PRを主導
法人化（検討）委員会	昭和61年～平成7年 法人化の是非のアンケート実施し法人化を検討、法人化を進める
報告書作成委員会	昭和52年 水質・土壌の計量証明様式統一を作成
統一様式委員会	昭和55年～ 大気・排ガス濃度関係の計量証明様式統一を作成等
料金問題（研究）委員会	昭和52年～平成1年度 会員の料金調査、標準工数よりモデル料金作成 事業所実態からみた適正料金の検討等
標準工数等検討委員会	平成2年～ 会員料金調査結果を会員配布等
消費税表示カルテル運営委員会	昭和63年～平成2年 消費税について表示に係る共同行為の実施の届出等

## 現在活動中の委員会の主な活動

現在活動中の委員会	主な活動内容
総務委員会	協会運営の基本事項の協議、各委員会の推進・調整、理事会への提言等
企画委員会	協会新規事業の企画、特命事項の検討、その他協会行事の企画・運営等
技術委員会	共同実験（クロスチェック）の実施と説明会開催、ガスメータ改良点の提言、技術発表会の企画・運営等、下記3つのWGで活動：水質・土壌WG、大気・臭気WG、騒音・振動WG
対外交渉委員会	行政・他団体との交流や海外研修生の受入等の計画立案 会員のための施設見学会や協会セミナー時の講師選定等
教育・研修委員会	会員に対し、環境、技術に関する教育、研修の企画立案 新任者研修、中堅実務者研修、環境計量士研修等
広報委員会	広報誌「あいかんきょう」の企画・取材・制作及び発行 「あいかんきょう」は、年4回発行
ホームページ委員会	愛環協のホームページの企画・制作及び公開 事業案内、会員紹介、新着情報、研修・講習会の報告等
災害緊急時対応委員会	行政と一体となって災害時における化学物質等の緊急調査 大災害時の現地調査とその報告等

総務委員会

● 景況調査 H24

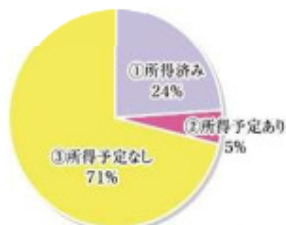
受注状況	結果	要因(内数)
増加	6社(12%)	受注件数増加(50%) 新規事業拡大(33%) 新規顧客拡大(17%)
ほぼ同様	21社(43%)	
減少	20社(41%)	価格の下落(29%) 受注件数の減少(44%)
大幅減少	2社(4%)	競争の激化(27%)

● 喚起標語 H24

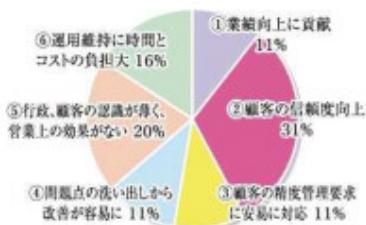


企画委員会

● ISO17025 の取得状況調査 H23



ISO/IEC17025の取得状況



ISO/IEC17025の取得効果

対外交流委員会

● 東濃地科学センター見学会 H24



● 日環協全国セミナー in 名古屋講演会 H22



## 広報委員会

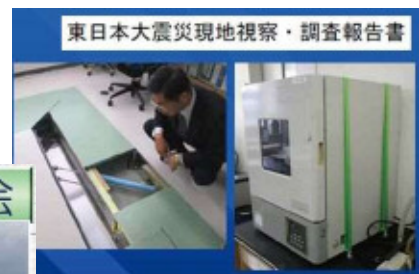


### ● 広報紙「あいかんきょう」H24

- ・表紙写真（会員から公募）
- ・四季折々
- ・トピックス  
（年始挨拶、表彰、交流報告等）
- ・委員会活動報告
- ・ブロック会議報告
- ・研修会聴講記
- ・賛助会員紹介
- ・測定機関紹介
- ・趣味のコーナー
- ・調査報告（景況調査等）
- ・その他

## ホームページ委員会

### ● トピックス, 会員情報 H24



## 災害緊急時対応委員会

- 東日本大震災現地視察 H23



## 教育・研修委員会

- 環境計量士講習会 H22

研修会・講演会	
6月	新任者研修会
6月	環境月間講演会
7月	初級統計研修会
7月	危機管理研修会
9月	中堅実務者研修会
11月	環境計量士研修会
1月	SOP研修会



## 技術委員会

- 平成 24 年度の主な取り組み

3つのWGで企画・運営（日環協中部支部と共催）

### 【水質・土壌WG】

共同実験（中部支部も参加）と結果の評価（Zスコア等）

### 【大気・臭気WG】

勉強会「正確にひょう量するための方法について」電子  
天びんの原理・構造、誤差要因等

### 【騒音・振動WG】

共同実験「低周波音の共同実験 測定及び解析について」

- 乾式ガスメーターキットの  
共同開発 S61



## 3. 主な活動の記録

### 昭和52年～昭和58年

- ◆ 昭和50年6月19日、（社）日本環境測定分析協会 中部支部結成
- ◆ 昭和52年8月9日に「愛知県環境測定分析業協議会」を設立
- ◆ 会員台帳の整備、「東海北陸環境ニュース」の発行
- ◆ 計量証明様式の統一を図るための報告書作成委員会、計量法に基づく技術分野の不明確部分の統一見解等をまとめる技術委員会を設置
- ◆ 昭和54年、愛知、静岡、岐阜、三重の4県にて「東海環境計量連絡協議会」を発足
- ◆ 昭和55年、地域別に6ブロック組織を編成
- ◆ 環境計量証明事業者数が全国的にも急増し、特に騒音関係の登録が顕著
- ◆ 全国初の「ガスメーターの精度管理のための一斉調査」を定期開催

S50 （社）日本環境測定分析協会  
中部支部結成（名古屋商工会議所にて）



S52 愛知県環境測定分析業協議会設立会議



S54 東海環境計量連絡協議会総会





## 昭和 59 年～平成 6 年

- ◆ 昭和59年、「愛知県環境測定分析業協議会」を「愛知県環境測定分析協会」に名称変更
- ◆ 金山に事務所を設置し、事務局担当理事を新設、及び専任の事務局長を採用
- ◆ 協会広報紙「愛環境」を発行（当初は手書き）
- ◆ 協会事務所に無料相談窓口を開設
- ◆ 昭和61年、事務局内に日環協中部支部事務局を併設
- ◆ 愛環協法人化検討委員会を発足
- ◆ 昭和62年、協会設立10周年記念式典を開催
- ◆ 愛環協の協会章を公募の上制定
- ◆ 愛知県環境考察代表团中国視察（蘇州、南京、上海）に、愛環協より11名が参加
- ◆ 東海環境技術発表会等を開催（以後毎年開催）
- ◆ 平成4年、協会設立15周年として、「協会事業15年の歩み」を作成

S62 愛知県環境測定分析業協議会  
設立 10 周年



協会設立10周年記念事業として、協会章を公募し、東亜合成化学工業㈱の鷹羽幸和氏の作品に決定しました。この協会章は、平成2年に商標登録されました。

S59 金山に事務所移転当時



H4 敦賀原子力発電所見学

## 平成7年～平成14年

- ◆ 平成8年3月12日に、「社団法人愛知県環境測定分析協会」として法人化し、設立総会を開催
- ◆ 当協会の主管が愛知県商工部から愛知県環境部に移行
- ◆ 平成8年、協会広報紙「愛環境」が活字化（第47号）
- ◆ 日環協中部支部と共催し、日環協・環境セミナー全国大会in四日市を開催
- ◆ 四日市にある国際環境技術移転センター（ICETT）より海外研修生を受け入れ、会員企業の協力の下、講習会や実習を開催（以後、平成11年までの受入数は毎年20名～40名）
- ◆ 平成12年9月に東海豪雨が発生、被害を受けた会員9社に見舞金を贈る
- ◆ 平成13年、協会設立25周年記念式典を開催し、25周年記念誌「新しい世紀の環境創造をめざして」を発行
- ◆ 平成14年、土壌汚染対策法が施行されるにあたり、講演会を複数回開催

H10 頃 総会受付



H10 頃 施設見学会



H8  
社団法人愛知県環境測定分析協会  
として法人化



H11 騒音測定実習会



H14 技術講演会



H13 頃 総会懇親会

### 25周年記念誌「新しい世紀の環境創造をめざして」のなかの座談会の一部を抜粋

—事務局担当理事であった濱地氏の発言より—

金山に協会事務局を移して半年たった頃、初代村山会長から、30歳そこそこの私に協会担当理事としてハンコを持って事務局の面倒をみてくれと言われました。・・

その後、村山会長がお亡くなりになり、次期会長をどうするかを総務委員会で検討を始めましたが、なにより愛環協の法人化を推進していただける方として、私はテクノ中部の藤原氏を推薦したところ、濱地お前が口説いて来いということになり、お願いに伺ったところ、こころよく引き受けていただきました。・・・

愛環協で行う行事も多くなり、新しく教育研修委員会を立ち上げ、私が手を挙げました。私の中には、これから協会を支えるのは教育であり、研修を十分にやっていかなければならない。業界の安定も、適正な料金などにもつながっていくのではないかと。調査や研究といった報告書をできるだけ多く出し、愛環協を社会に認知していただくことが法人化の一つの要件と考えていました。・・・

## 平成 15 年～平成 24 年

- ◆ 平成15年、愛環協新会長に濱地光男氏を選出し、新世紀に対応する協会の刷新を開始
- ◆ 環境分析に関する精度管理、温暖化防止及び生物多様性の推進等のその時期のトレンドをテーマとした「喚起標語」を正会員から募集、入選作を翌年度の喚起標語として配布
- ◆ 平成17年、協会広報紙を「あいかんきょう」に改め、内容を大幅にグレードアップ（第84号）
- ◆ 平成17年、自然の叡智をテーマに、愛・地球博（2005年日本国際博覧会）が愛知で開催
- ◆ 平成19年、愛環協設立30周年記念式典が開催
- ◆ 公益法人制度改革対応のための準備委員会を設置
- ◆ 平成20年11月、海外調査事業として、タイを訪問
- ◆ 平成21年、景況に関する意識調査（受注動向やその要因に関するアンケート）を実施し、結果を機関紙に掲載（景況調査は以後毎年継続）
- ◆ 平成22年、生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が愛知で開催
- ◆ COP10開催記念事業として、愛環協写真コンテストを実施
- ◆ 平成22年、日環協中部支部と共催にて、日環協・環境セミナー全国大会in名古屋を開催
- ◆ 平成22年より、愛知県と「災害時における化学物質等の調査に関する協定」の締結について検討を開始し、平成23年3月18日に愛知県と愛環協で締結（協定では、大規模な災害が発生した際、愛環協は愛知県の要請を受け、組織的に化学物質等の調査を最優先で行う等を確認する内容）
- ◆ 愛環協の対応組織として、災害時緊急対応委員会を設置
- ◆ 平成23年3月11日に東日本大震災が発生し、同時に原子力発電所より大規模な放射能汚染が発生
- ◆ 日環協と連携して募金を行い、7月に、日環協・他の県単に先駆けて、「東日本大震災現地視察」（東北緑化環境保全㈱他を訪問）を実施
- ◆ 平成24年4月1日に、公益法人制度改革に伴い、一般社団法人愛知県環境測定分析協会に移行
- ◆ 平成24年5月、現地視察第2回を実施し、「環境計量証明事業所の危機管理」と題した講演会を開催
- ◆ 平成24年、愛環協設立35周年行事を実施
- ◆ 平成25年3月、首都圏（埼玉、千葉、東京、神奈川）環境計量協議会連絡会と、合同研修会及び意見交換会を開催

## 愛環協主催の喚起標語の入選作

年 度	喚起標語（入選作）
平成15年	守ろうルール、残そう記録、精度管理の第一歩
平成16年	精度管理 一人一人が責任者
平成17年	計量は正確、精密、誠実に
平成18年	信頼と 品質高める 精度管理
平成19年	温暖化 防止をになう 環境分析
平成20年	計量も ムダムラなくして 省エネで
平成21年	計量で 明日へつなごう 豊かな自然
平成22年	環境と暮らしをまもる 確かな測定
平成23年	未来ある地球の明日を守るため きちんと測定確かな証明
平成24年	信頼は 一つ一つの積み重ね ルールを守って正しい計量

H24  
環境計量士等研修会



H22 日環協・環境セミナー全国大会 in Nagoya



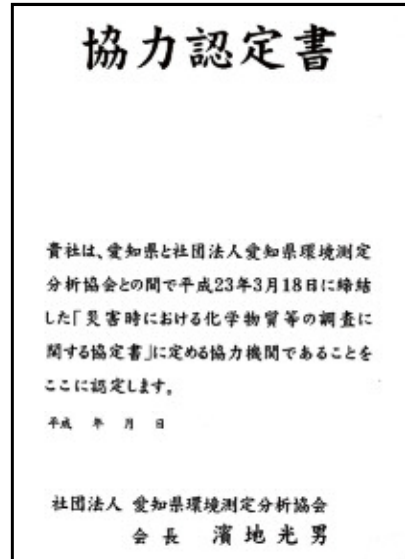
H24  
首都圏環境計量協議会連絡会  
と合同研修



H24 日環協経営者セミナー in 四日市



H23 愛知県との「災害時における化学物質等の調査に関する認定書」の協力機関認定書



H25 環境月間講演会



H24 濱地会長が愛知県環境功労者表彰を受賞



## 4. 愛環協の今後の課題と提言

愛知県環境測定分析協会は1977年（昭和52年）8月に設立され、36年目を迎えようとしております。計量法改正により環境計量証明事業認可制度が発足しこれに伴い愛知県の指導を頂き、適正な計量を推進するために設立されたものであります。当初は試行錯誤で運営されていた協会も、諸先輩の努力により県単位組織ではほかには例のない公益法人組織となり、全国でも際立った活動を行ってきており、最もまとまっている団体として評価されています。

さて、業界で最も問題とされ解決が急がれているのが、分析測定料金における異常な低価格問題です。この料金問題は協会設立当時から存在しており古くて新しい、言わば業界が存続する以上この問題は完全に消し去ることは不可能でありましょう。しかしながら異常な状況から脱することは可能であると信じています。低料金問題、過去は主に規模が小さいいわば零細企業の事業所による価格破壊で「他に比べ安いね、困ったね」レベルでありましたが、近年は全国展開する大手事業所による価格破壊が進み、それによりすべての事業所が低価格料金に巻き込まれることになり、景気の停滞も重なり更に競争が激化し経営基盤を揺るがすほどの異常な料金となっています。私は決して安いことが悪いと申し上げているのではありません。業界としても目指すところは顧客満足であることには違いはなくいずれの事業所におかれましても「正確なデータを安く、早く提供する」ことが究極の目標でありましょう。ただし目標が一緒であってもこれは同一の条件を満たした中での競争でなくてはなりません。

異常な価格になったことを近年の官公庁の入札制度を批判し、その改善を要求することを唱える事業者も多くおられますが、このような事態を引き起こしたのは我々に責任があることを肝に銘じておかなければなりません。

事業者は同じスタートラインから競争する必要があります。それにはまず、第一に遵法が大切なことです。我々を取り巻く法律や規格は数えきれないくらいあります。言うまでもなく計量法、JIS規格、公定分析法、毒劇物、高圧ガス、放射線、・・・ 等等、合理化を図るためにうっかり公定法などでは認められない自動測定器など使用していないか、などにも注意をしなくてはなりません。次に分析者の技術とモラルの教育でありましょう。もっとも重要なことは経営者が姿勢を正すことかもしれません。昨今の愛知県計量センターの立ち入り検査において、検査内容は技術を除く計量法一般事務手続き、登録に必要な要件のみのイロハ検査だけで立ち入った登録事業所半数に重要な問題を含み何らかの問題があったと聞いております。技術関連をも含めて立ち入り検査を実施したらと考えると・・・

このような実態を踏まえ今後協会活動をどのようにすべきかは新たな役員の皆様で考えていただきたいと思います。最後に我々は数値を証明する公的機関同様な行為を行っており遵法は当然のこと、その責任は大変重いビジネスであることを忘れてはなりません。



濱地氏の杖術演武

前愛環協代表理事、現愛環協顧問

前日環協理事・中部支部長、現日環協監事

濱地 光 男

愛知県環境測定分析協会の歩み

発行 平成25年7月11日

発行元 一般社団法人 愛知県環境測定分析協会  
一般社団法人 日本環境測定分析協会 中部支部  
〒460-0022 名古屋市中区金山一丁目2番4号 アイディ・エリア405号  
TEL(FAX)052-321-3803

発行責任者 河野 達郎  
編集委員 河野 達郎 大野 哲 柴田 金作  
事務局 手塚 守